

# sanwa

# sanwa

発売元

**三和電気計器株式会社**

本社=東京都千代田区外神田2-4-4・電波ビル  
郵便番号=101-0021・電話=東京(03)3253-4871(代)  
大阪営業所=大阪市浪速区恵美須西2-7-2  
郵便番号=556-0003・電話=大阪(06)631-7361(代)

製造元

**三和M.I.テクノス株式会社**

東京都羽村市神明台4-7-15  
郵便番号=205-0023・電話=(042)578-1411

# STH-500C

## デジタル温度計

取扱説明書

## デジタル温度計

STH-500C形

### 取扱説明書

この度は STH-500C 形温度計をお買い上げいただき、誠にありがとうございました。

STH-500C形は測温センサに白金薄膜測温抵抗体を使用しておりますので、-50~450°Cの広範囲で高精度の温度測定ができ、広い分野での活用ができるようになっております。

### S 特長

- ・手の感触と操作性を追求したボディデザインです。
- ・白金薄膜測温抵抗体の採用と分解能切換方式により、-50~450°Cの広範囲で高精度の測定が可能です。
- ・標準測温センサプロープにシース形T-450(-50~450°C)を用意、広い分野での活用が可能です。
- ・LCDバックライト機能付きです。
- ・データホールド機能付きです。

### S 定格

測温センサ	白金薄膜測温抵抗体
測温範囲	-50~199.9°C、-50~450°C 2レンジ切換式
分解能	0.1°C/1°C
精度(本体)	±(0.5%rdg+0.5°C)/±(0.5%rdg+2°C)
測温センサ精度	±0.5°C
オプティカル表示	約2.5回/秒 最大1999LCD 最大桁1のみでオーバー表示 °C単位表示、データホールド時M表示 バッテリーアラーム時間表示

LCDバックライト機能付き

データホールド機能付き

使用温・湿度範囲 0~50°C 80%RH以下(結露のないこと)

保存温・湿度範囲 -10~50°C 80%RH以下

使用電源 SUN-3×4本 連続使用約250時間

(但し、常温でバッテリーを使用しない場合)

寸法・重量(本体) 173×42×31mm 約200g

付属品 取扱説明書

別売付属品 シース形センサプロープ(T-450)

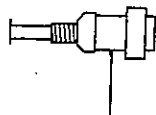
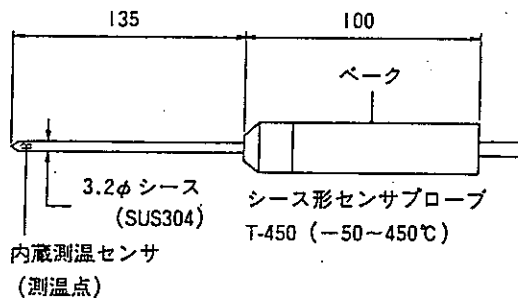
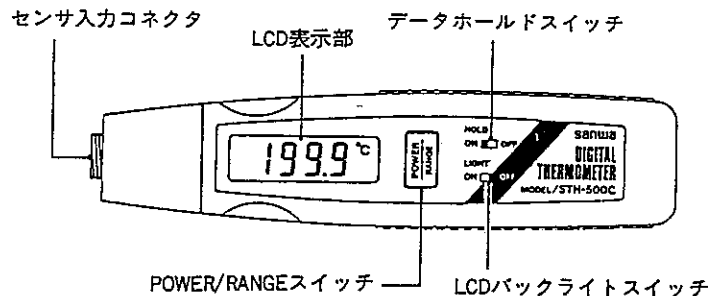
携帯ケース(C-STH)

## § センサ定格

品名	シース形センサプローブT-450
测温抵抗体	白金薄膜测温抵抗体 (0°Cにて1000Ω)
测温範囲	-50~450°C
応答速度(90%)	約7秒間
握り部耐熱	150°C
接続リード	2導線式 約1.5m
センサ部寸法	3.2φ×135mm
外形寸法	15φ×235mm
重量	約80g

※但し、結露のないこと。

## § 各部名称



第1図

## § 使用上の注意

1. ご使用に際して、まず本器の電池の確認をして下さい。  
電池については10頁を参照して下さい。
2. 食品関係の内部温度の測定が出来る様にシース形センサプローブの先端は尖っていますので、注意してご使用下さい。
3. シース形測温センサプローブの測温センサの白金薄膜抵抗体は、約450°Cで一度熱処理した後に規定の抵抗値に設定されていますので、450°C以上の測定をされますと測温センサの規定の抵抗値が変化して、本器の定格を満足できない状態になります。  
また、約550°C以上の測定をされますと白金薄膜抵抗体が剥離して測温センサが不良になりますので、450°C以上の温度測定は絶対にしないで下さい。
4. センサ定格の応答速度は測定条件及び測定対象によって異なります。  
本器のセンサ定格における応答速度は、シース形センサプローブを室温から沸騰水(約100°C)の中に入れた場合です。
5. センサプローブを本体に接続しない状態でPOWER ONしますと、200°Cレンジ1 . °C(オーバー表示)、450°Cレンジで845°C位を表示しますが、これは本器が故障しているためではありませんので、あらかじめご承知下さい。
6. 本器の表示部及び測温部には強い衝撃などを加えないようにして下さい。  
また、本体は防滴構造ではありませんので、ご注意下さい。
7. 衝撃や振動の多い所、直射日光の下、高温(又は低温)、多湿な場所などへは長時間放置しないようにして下さい。

また、長時間使用しないときは、電池を取りはずして下さい。

8. その他、ご不明な点や技術的なご質問は取扱説明書の裏表紙に記載されております発売元又は、製造元へお問い合わせ下さい。  
尚、技術的なご質問は出来るだけ製造元へお願い致します。

## § 使用法

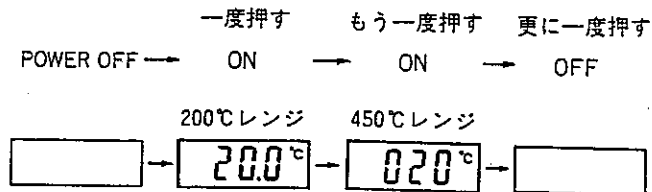
ご使用になる前に前頁 § 使用上の注意事項の項目を熟読の上、ご使用下さい。

### 1. 操作方法

本体のセンサ入力コネクタにシース形センサプローブの丸形プラグを接続します。

データホールドスイッチがOFFの状態ではPOWER/RANGEスイッチを一度押しますと第2図のようにPOWER ONで200°Cレンジになり、もう一度押しますと第3図のようにPOWER ONで450°Cレンジになります。

そしてこの状態で更にもう一度押しますとPOWER OFFとなります。これを図示しますと下図のようになります。



第2図

第3図

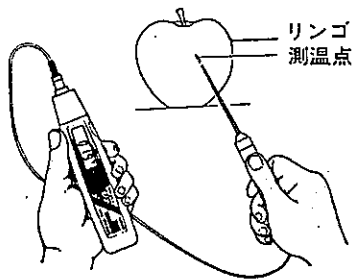
## 2. 測定方法

シース形センサプローブの測温センサは先端付近に内蔵されておりますが、本器は測温センサの温度（測温点）を表示しますので、測定対象に応じた温度測定を行う必要があります。

まず、POWER ONにして任意のレンジにします。

### 2-1 内部温度の測定

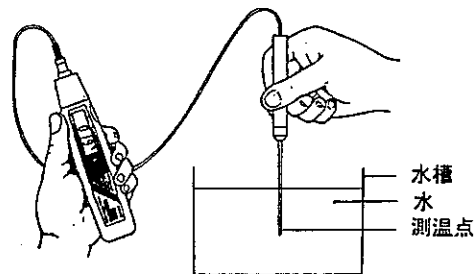
シース形センサプローブを本体に接続して、第4図のように測温物（リンゴ）の内部にシースの先端を入れますと、測温点の温度が表示されます。



第4図

### 2-2 液体の温度測定

シース形センサプローブを本体に接続して、8頁第5図のように測温物（水）中にシースの先端を入れますと測温点の温度が表示されます。



第5図

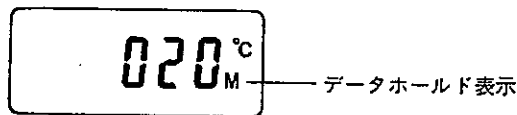
測定終了後は必ずPOWER OFFの状態にして下さい。

## § データホールド機能

POWER ONの状態ではデータホールドスイッチをONにしますと、表示値をホールドすることができます。

この場合、第6図のように表示部にMが表示されてデータホールド状態であることを示します

そしてデータホールドスイッチをOFFにしますとデータホールドが解除されます。



第6図

## § LCDバックライト機能

POWER ONの状態ではLCDのバックライトスイッチをONにしますと液晶がバックライトされて、暗い場所での温度測定ができます。

## § 電池

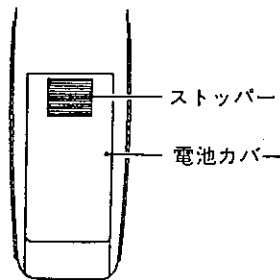
### 1. 電池の取付

1-1 第7図において、本器背面にある電池カバーのストッパーのところを指で強く押し、手前に引き抜くようにして電池カバーをはずします。

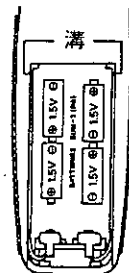
1-2 乾電池（単3）4本を第8図の中に描いてある極性どなりに正しく入れます。

この際、奥の乾電池2本から入れるようにしますとスムーズに電池の取り付けができます。

1-3 電池カバーを第8図の溝に乗せ、すべらせるようにして押し上げ元通りにします。



第7図



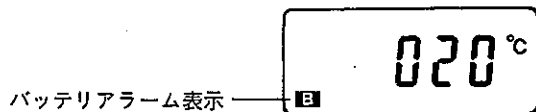
第8図

## 2. 電池の交換

POWER ONの状態第9図のように表示部にバッテリーアラーム表示の $\square$ が表示された場合は、内蔵電池が消耗して本器の定格を満足できない状態ですので、新しい電池と交換する必要があります。

また、POWERスイッチを押して表示部に何も表示されない場合も同様に電池を交換して下さい。

電池の交換は前記1. 電池の取付と同様の要領で行って下さい。



第9図

説明書中の仕様は性能向上のため、お断りなく変更することがあります。

STH-500C